



Kobe University Repository : Kernel

Title	海員ノ保護及保險ヲ論ズ(3)(3)
Author(s)	堀, 光龜
Citation	經濟學商業學國民經濟雜誌,8(6):965-979
Issue date	1910-06
Resource Type	Departmental Bulletin Paper / 紀要論文
Resource Version	publisher
DOI	
URL	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/00051577

Create Date: 2017-06-29



海員ノ保護及保險ヲ論ズ (其三)

東京高等商業學校教授

商學士 堀

光 龜

三、老廢保險及救濟(附寡婦孤兒保險及救濟)

老ヲ養ヒ廢疾ヲ救フハ彼ノ疾病及災厄ノ救濟ト相俟ツテ社會政策上必要缺ク可カラザルハ論ナキノミナラズ老廢救濟ノ道明カニシテ始メテ勞働者ハ危憂ヲ脱シ誠心誠意勞務ニ忠實ナルヲ得ベク亦以テ經濟上必要缺クベカラザル事項ト言ハザルベカラズ蓋シ曩ニ述ベタル災厄保險ニ於テモ年金又ハ一時金ノ給付ニヨリテ老廢者又ハ死者遺族ノ生計ヲ維持スルモノアリト雖モ夫ハ必ズヤ業務災厄ニ原因シテ勞働不能ニ陷レル者カ又ハ死去セルモノ、遺族タルヲ要シ未ダ以テ業務災厄以外ノ原因ニ依リテ廢疾ニ歸シ又ハ老境ニ入レル者ノ救護ヲ包轄セズ是等ヲ其成行ノ儘ニ放任センカ老廢者ハ勞働不能ノ結果遂ニ糊口ノ道ニ窮シ貧弱座シテ死ヲ待ツノ悲境ニ陥ラザルベカラズ元ヨリカ、ル場合ニ到達セン乎文明國ニ於テハ貧民救護ノ方法存

セザルニアラズト雖モ抑モ貧民救護ハ百計盡キテ後之ヲ施スベキ一道ノ血路ニシテカ、ル悲惨ノ境涯ハ未前ニ之ヲ防遏スルノ優レルニ加カザルベクレバナリ。老廢保險及救濟ノ必要夫レ斯クノ如ク大ナルモノアルニ係ラズ現今之ヲ強制的ニ實行シツ、アル國ハ甚ダ少ナシ、之蓋シ老廢保險救濟ノ性質ハ疾病ノ如ク一時的ナラズ災厄ノ如ク保險金ノ負擔ガ雇主ノミニ限ラズ勞働者モ亦其一部ヲ負擔セザルベカラザルガ故ニ勞働者ノ財政上ノ負擔ヲ大ナラシムルノ嫌アルノミナラズ、國家自カラ救濟ノ任ニ當ラントスル時バ其費額頗ル大ニ以テ財政上ノ困難ヲ生ズルノ恐アルニ因レリ。

今海員ニ對スル老廢保險及救濟ヲ強制又ハ國家ノ義務トシテ實行シツ、アル國ヲ檢スルニ獨佛英丁ノ四ヶ國ニ過ギズ以太利ノ如キ夙ニ官業トシテ之ヲ行ヘリト雖モ未ダ之ヲ強制トナスニ至ラズ、老廢保險救濟ヲ實行スル四ヶ國ノ内獨佛ノ二ヶ國ハ保險制ニ依リ英丁ノ二國ハ國家又ハ自治團體ノ義務的救濟トシテ之ヲ行ヘリ就中、獨逸ハ老廢強制保險ノ鼻祖ニシテ千八百八十一年ノ皇帝「ウイールム」一世ノ宣言ニ基ヅキ先ヅ疾病及災厄ニ對スル強制保險ヲ制定シタル後千八

百八十九年癱疾及養老保險法 (Invaliditäts und Altersversicherungsgesetz) ヲ制定シタリシガ千八百九十九年更ニ之ヲ改正シテ現行ノ老癱保險法 (Invalidenversicherungsgesetz) ヲ見ルニ至レリ。同保險法ハ最初全ク海陸ノ別ヲ存ゼザリシガ後千九百七年海員ニ對スル老癱保險ハ全ク之ヲ陸上勞動者ニ對スル老癱保險ヨリ分離シ Seebertungs-genossenschaft ノ手ニ之ヲ委スルニ至リテヨク海員老癱保險ハ未ダ一般老癱保險法ニ於テ見ルヲ得ザル寡婦及遺兒保險 (Witwen- und Waisenversicherung) ヲモ結合實行セラル、ニ至レルハ海員社會ノ誇トナス所ナリ佛國ニ於ケル現行海上老癱保險法 (Loi, concernant les pensions sur la Caisse des Invalides de la Marine) ハ千九百八年七月十四日ノ制定ニ係リ寡婦及遺兒保險ヲ包含セリ、英國ニ於テハ夙ニ共濟組合又ハ職工組合ノ事業トシテ老癱救濟ノ道ヲ講ズルモノナキニアラザリシモ其實行甚ダ困難ニシテ目的ヲ達スルニ足ラザリシカバ遂ニ近來社會政策ノ風潮ニ乗ジテ千九百八年養老年金條例 (Old age Pensions Act) ヲ制定シ海陸共ニ之ヲ適用スルニ至レリ、丁抹ニ於テハ千九百二年養老法ヲ制定シ千九百八年之ニ改正ヲ加ヘ海陸ノ別ナク之ヲ適用セリ其他瑞典、那威、西班牙、和蘭、埃甸等ノ諸國ニ於テモ近年老癱保險制定

ノ議アリト雖未ダ議會ノ協贊ヲ經ルニ至ラズ之蓋シ前陳ノ困難存ズルニ因ルナリ。

老廢保險及救濟ノ組織及内容ヲ略述センニ左ノ如シ。

(イ)保險及救濟ノ組織　獨逸ニ於テハ千九百七年ニ至ル迄ハ海陸ノ別ナク等シク之ヲ地域的老廢保險組合ニ包括シ勞働者及使用人ト雇主トヲ以テ之ヲ組織シ相互保險ノ方法ニ依レリト雖セ同年一月一日ヲ以テ海上老廢保險ハ全ク之ヲ陸上老廢保險ヨリ分離シ船主ノ組合タル *Seeverufsgenossenschaft* ノ手ニ之ヲ移スニ至レリ(災厄保險參照)佛國ニ於テハ國家ノ經營ニ係ル老廢保險局之ニ當リ相互保險ノ主義ニ依レリ英國ノ養老年金制度ハ純然タル國家事業ニシテ勞働者ハ一モ保險料納付ノ義務ヲ負ハズ隨ツテ國家自カラ其經理ノ任ニ當レリ丁抹モ亦英國ト其軌ヲ一ニセリ。

(ロ)保險及救濟適用ノ範圍

老廢保險ノ適用ヲ受クベキ人ノ範圍ハ獨佛何レ

モ曩ニ災厄保險ニ就テ述ベタル所ト異ナル所ナシ然レドモ英國及ビ丁抹ニ於テハ災厄保險ノ場合ニアリテハ外國人ヲモ之ヲ包括セルニ係ハラズ養老年金ノ場

合ニアリテハ之ヲ除外セリ之蓋シ災厄保險ノ場合ハ船主ガ罹災者ニ對スル當然ノ義務トシテ保險ノ負擔ヲ船主ニ負ハシムルモノナレドモ養老年金ノ場合ハ稍ヤ其意味ヲ異ニシ國家ガ自國民ノ幸福ヲ保證セントスル純然タル社會政策ニ外ナラザレバ其恩典ヲ外國人ニ及ボスハ多キニ失スルノ嫌アルニ因ルナリ。

(八)救濟ノ制限　救濟ノ制限換言スレバ養老年金及廢疾年金ノ請求權ヲ獲得スベキ條件及ビ救濟制限ノ條件ニ至ツテハ養老ト廢疾救濟トノ別ニ依テ自カラ異ナラザルヲ得ズ。

先ヅ養老ノ場合ヨリ説カンニ英、丁ニ於テハ被保險者ニ保險料納付ノ義務ヲ負ハシメザルガ故ニ年金請求ノ資格モ獨佛ノ如キ相互保險制ノ場合ニ比スレバ甚ダ簡單ナリ即チ英國ニ於テハ年齡滿七十歳以上ニ達シ二十ヶ年以上引續キ英國ニ居住シタル者ニシテ一ヶ年ノ收入三十一磅十志ニ達セザル者ハ養老年金ヲ受クル資格ヲ有ストナセリ丁抹ニ於テハ年齡六十歳以上ニ達シ十ヶ年間丁抹ニ住居ヲ有シタル者ニシテ自己又ハ扶養ノ義務アル家族ノ給養ニ窮シ疾病ニ際シテ醫療ノ資無キ者ニ對シテ救濟ヲ行フモノトス但シ破廉耻罪ノ宣告ヲ受ケ又ハ故

意其他自業自得ノ結果カ、ル窮境ニ陷レル者ハ救濟ノ恩典ニ浴スル能ハザルハ論ナキ所ナリ、獨逸ニ於テハ年齡七十歳以上ニ達シ少ナクモ千二百週間ノ準備期間 (Wartezeit) ニ對シテ保險料ヲ納付セル者ニハ勞働ノ能不能ノ如何ニ係ラズ所定ノ養老年金ヲ給與ス故ニ一ケ年ヲ五十週間トシテ計算スル時ハ二十四ケ年ノ準備期間ヲ要スルコト、ナルナリ佛國ニ於テハ年齡五十歳以上ニ達シ少ナクトモ三百ケ月間佛國船ニ勤務セル登簿海員タランニハ年金請求權ヲ有ス但シ軍艦ニ乗組ミ又ハ兵役ニ服シタル期間ハ全部又ハ一部之ヲ加算スルモノトス。

廢疾救濟ニ關シテハ英國ニ於テハ何等ノ規定ナシ丁抹ニ於テハ六十歳ヲ超ヘタル者ガ疾病ノ爲メ醫療費ニ窮スルモノニ對シテハ養老法ノ規定ニ依テ之ヲ救濟スルコト、セルハ前述セル所ノ如シ獨逸ニ於テハ年齡ノ如何ニ係ラズ少ナクトモ百週間保險義務アル勞務ニ從事シ其間ニ二百週ニ對スル保險料ヲ納付セル者ハ(但シ此場合ニ於テ被保險者ハ保險義務アル勞務ニ從事セザル百週間ニ對シテモ任意ニ保險料ヲ納付セルモノトス)永久の勞働不能ノ状態ニ陷レル時始メテ所定ノ廢疾年金請求權ヲ得ベク其他ノ場合ニアリテハ五百週間保險料ヲ納付セ

ザレバ其請求權ヲ得ル能ハズ但シ疾病ノ爲メ既ニ二十六週間勞働不能トナリ猶ホ引續キ勞働不能ノ状態ニアル時又ハ疾病老衰ノ爲メ勞働力ガ普通ノ人ノ三分ノ一以下ニ減ジタル時ハ之ヲ以テ永久の勞働不能ト見做ス元ヨリ當人が再ビ勞働可能ノ状態ニ復セル時ハ此限リニアラズ猶ホ勞働不能ノ原因ニ就テハ問フ所ナシト雖モ唯ダ故意又ハ犯罪的行爲ニ基因セル場合ニハ年金請求權ヲ失フハ論ナキ所ナリ又癱疾者ガ災厄年金及ビ國家又ハ自治團體ヨリ或種ノ年金ヲ受取ル場合ニ其額ト癱疾年金トノ合計額ガ癱疾年金々額ノ七倍半以上ニ達スル時ハ癱疾年金ノ一部ヲ削減スベシ又本人ガ一ヶ月以上禁錮ニ處セラレ又ハ海外ニ住居スル時ハ癱疾年金ノ全部ヲ中止スルモノトス佛國ノ規定ニ依レバ假令五十歳ニ達セザルモ海員ガ癱疾ノ爲メ勞働不能ノ状態ニ陥リ特別委員ノ認定ヲ經タル時ハ所定ノ年金ヲ受クルコトヲ得ベシ又登録海員ニシテ少ナクモ百八十ヶ月間海員トナリ内百ヶ月間航海ニ従事シタル者ガ癱疾ノ爲メ其勞務ニ従事スル能ハザルニ至レル時ハ一部年金請求ノ權利ヲ得ベシ但シ癱疾者ガ再ビ勞働可能ノ状態ニ復シ海員ノ職務ヲ得ルニ至レル時ハ其一部年金ノ給與ハ杜絶セララルベシ猶ホ

老廢保險ニ於テハ獨佛何レモ老廢救濟請求權ヲ有セル海員ノ遺族(寡婦及遺兒)ニ對シテハ一定ノ條件ノ下ニ年金ノ給與ヲナスベキ規定ヲ設ケタリ。

(三)救濟金ノ負擔者及基金構成ノ方法 英國及丁抹ニ於ケル養老年金及救濟金ハ悉ク國家ノ支辨ニ屬スルモノナレバ別ニ錯雜ナル基金構ノ成方法存在セズ唯ダ年々議會ノ協贊ヲ經テ其支出額ヲ豫定セザル可カラズ而シテ英國ニ於ケル養老年金支出額ハ海陸全體ヲ通ジテ六百萬磅乃至八百萬磅ノ鉅額ニ達スト云フ。獨佛ニ於ケル老廢保險ハ國家、船主及被保險者(海員勞動者及使用人)ノ三者相協同シテ基金ヲ構成スルモノトス即チ政府ノ補助金、船主及被保險者ノ支出スル保險料之ニシテ今獨逸ニ於ケル其内容ヲ舉グレバ左ノ如シ。

A、政府ノ補助 各年金支給毎ニ五十馬克ヲ補助ス
B、保險料 保險料ノ率ハ被保險者ノ賃銀階級ニ依テ之ヲ異ニセリ賃銀階級ハ之ヲ年收額ニ依リテ左ノ五階級トナシ之ニ應ジテ保險料ノ率ヲ定ム即チ左ノ如シ

賃銀階級	保險料率(一週間毎ニ)
一等 三百五十馬克以下	二十パーセント
二等 三百五十馬克以上五百五十馬克	二十六パーセント
三等 五百五十馬克以上八百五十馬克	三十二パーセント

四等 八百五十馬克以上千五百馬克

四十ペニツヒ

五等 千五百馬克以上

四十六ペニツヒ

保險料ヲ支拂ヒ以テ他日取得シ得ベキ年金ヲ大ナラシムルヲ得ベシ然レトモ右保險料ハ船主ト被保險者タル海員及使用人が折半シテ負擔スベキモノナリ

但シ被保險者ノ希望ニ依リ實際本人ノ所屬スベキ賃銀階級以上ノ保險料ヲ支拂ヒ以テ他日取得シ得ベキ年金ノ額ヲ大ナラシメ得ザルニアラズト雖モ其場合ニ於テハ其自己ノ所屬セル階級ニ對スル保險料率以上ノ部分ニ對シテハ船主ニ折半分擔ヲ強ユル能ハズ被保險者自カラ之ヲ支拂セザル可ラザルハ無論ナリ、猶ホ右ノ保險料ハ一週間毎ニ之ヲ納付ス可キモノナレドモ夫ハ唯ダ保險義務アル勞務ニ從事セル場合ニ限り然ラザル場合ニ於テハ敢テ保險料納付ノ義務ナシ尤モ本人ノ希望ニ依リテ任意ニ保險料ヲ納付スルコトハ別ニ差支ナキノミナラズ却ツテ獎勵スル所ナリ(例之準備期間ヲ短縮スルガ如シ)且又年金ヲ受ケルニ至レル者ハ最早保險料納付ノ義務ナキモノトス

佛國ニ於テモ老廢保險基金ハ政府ノ補助金ト船主及被保險者ノ保險料ニ構成セララル、コト獨逸ト異ナル所ナシ唯被保險者ハ其賃銀ノ五分ヲ納付シ船主ハ被保險者ノ支拂フ保險料全額ニ對スル五分ノ三ヲ納付セザル可カラズ政府モ亦獨逸ニ於ケルガ如ク年金一口ニ付何程ト支出スルニアラズシテ必要ニ應ジテ相當ノ補助ヲ行フニ過ギズ。

(ホ)救濟ノ方法及其程度、 災厄保險及救濟ノ場合ニ於テハ一時金制度ニ依ルモノ少ナカラズト雖モ老廢保險及ビ救濟ノ場合ニ於テハ何レノ國ニアリテモ年金制度ニ依ラザルハナシ之蓋シ既ニ述ベタルガ如ク一時金ハ消散滅盡ノ危險多

ク随ツテ老廢者救濟ノ趣旨ニ反スルノ恐アルノミナラズ老廢保險ノ必要ハ被保者ノ死亡ニ至ルマデ繼續スルヲ原則トナスモノナレバ一時金々額ヲ一定スル時ハ被保者壽命ノ長短ニ依テ救濟ノ程度ニ甚シキ厚薄ノ差ヲ生ズルノ嫌アルニ因レリ今各國ガ實行シツ、アル救濟ノ方法及程度ヲ見ルニ英國ニアツテハ養老年金々額ハ一ケ年ノ所得二十一磅未滿ノ者ニ對シテハ每週五志トナシ三十一磅半ノ所得アル者ヲ限度トシテ其間ヲ四級ニ分テ年金額ヲ遞減セリ、丁抹ニアツテハ養老救濟ノ範圍ハ本人及其扶養ノ義務アル家族ノ給養及ビ疾病ノ場合ニ於ケル醫療ノ費用ヲ包含ス然レドモ其救濟ノ方法ハ敢テ金錢ヲ以テスルト限レルニアラズ必要ニ應ジテ或ハ物品ヲ給與スルコトモアルベク或ハ又特設ノ給養所ニ收容スルコトモアルベシ獨逸ニ於ケル養老年金ハ政府ノ補助金五十馬克ト保險組合ヨリ支出スル賃銀階級ニ依テ定メラレタル左ノ如キ年金トノ合計額ナリトス。

一等	六十馬克	二等	九十馬克
三等	百二十馬克	四等	百五十馬克
五等	百八十馬克		

又獨逸ニ於ケル廢疾年金ハ同シク政府ノ補助金五十馬克ト保險組合ヨリ支出

スル年金額トノ合計額ナリ而シテ保險組合ヨリ支出スベキ金額ハ實銀階級ニ應ジテ定メタル定額ト被保者ガ實際保險料ヲ納付シタル週數ニ對スル割増金(左ノ週率ヲ保險料納付週數ニ乗シタル額)トヨリ成ルモノニシテ即チ左ノ如シ。

實銀階級ニ依ル定額

割増率(一週ニ付)

一等	六十馬克	三ムンニツヒ
二等	七十馬克	六ムンニツヒ
三等	八十馬克	八ムンニツヒ
四等	九十馬克	十ムンニツヒ
五等	百馬克	十二ムンニツヒ

猶ホ獨逸ニ於ケル一般老廢保險法ハ遺族タル寡婦遺兒ニ對スル保險ヲ含マズト雖モ千九百七年 Seebertutsgenossenschaft ガ海上老廢保險ヲ掌ルニ至ツテヤ遺族ニ對スル保險ヲモ之ヲ包含セシムルコト、ナシ隨ツテ特ニ保險料ノ率ヲ一般老廢保險料ノ者ヨリ引上グルニ至レリ之蓋シ海員ハ平均四十五歲位ニシテ船業ヲ止メ他ノ獨立職業ニ轉ズルヲ常トシ老廢保險ノ恩典ニ浴スルコト比較的少ナキノミナラズ彼ノ災厄保險ニ於テ業務災厄ト見做サレザル風土病(熱帶地方ニ流行スル熱病脚氣病等ノ如シ)ニ罹リテ頓死スル場合少ナカラズ而カモ此場合ニアリテ

ハ災厄保險ニ依テ遺族救濟ノ恩典ニ浴スル能ハザルガ故ニ今老廢保險ニ配スルニ遺族救濟ヲ以テナス時ハ是等ノ缺點ヲ補ヒ得テ海員保護ノ實際ニ適當スルモノアレバナリ即チ遺族ニ對スル年金々額ハ死亡者ノ賃銀階級ニ應ジテ左ノ如ク定メラル。

寡婦年金

一等	三十馬克	二等	四十馬克
三等	五十馬克	四等	六十五馬克
五等	八十馬克		

猶ホ遺兒存在スル時ハ右ノ寡婦年金ノ外ニ各遺兒ニ對シテ右同様ノ年金ヲ給與セザル可カラズ但シ一家族ニ對シ右定額ノ三倍即チ一等九十馬克乃至五等二百四十馬克ヲ超過スルコトヲ得ズ。

佛蘭西ニ於ケル養老及廢疾年金々額モ亦海員ノ階級ニ應ジテ同一ナラズ最高年金六百三十六フラン最低年金三百六十フランナリ又被保者ガ死亡セル場合ニハ遺族ニ對スル年金ノ設アリ即チ寡婦ハ亡夫ノ既得權ニ屬スル年金請求權ヲ繼承スルモノトス但シ寡婦ニ兒ナク且ツ四十歳未滿ナル時ハ年金請求權ヲ失フモ

ノニシテ兒アル時ハ年齢ノ如何ニ關セズ年金請求權ヲ得ルモノトス又寡婦ガ再
ビ結婚シテ其夫ガ年金ヲ受ケツ、アル時ハ其婦人ハ年金請求權ヲ失ナヒ其夫ガ
死亡シ又ハ離婚トナレル時ハ年金請求權ハ更ニ復活ス又寡婦ガ死亡スルカ又ハ
年金請求權ヲ失フニ至ル時ハ十六歳未滿ノ遺兒アル時ハ其兒ガ年金請求權ヲ繼
承シ其兒ガ十六歳ニ達スル時ハ順次其弟妹ニ其權利ヲ繼承スルモノトス。

第三、 結 論

吾人ハ以上上海上社會政策ノ中堅タル可キ海員保護及ビ海員保險救濟ニ關スル
各國ノ規定ニ就テ論述スル所アリタリ然リ而シテ是等海員ニ關スル社會政策的
法律規定ナルモノハ他ノ海運業ノ三要素タル船舶、航路、航海ニ關スル技術上、衛生
上危害豫防上ノ萬國の又ハ國法的法律規則及ビ施設ト相俟ツテ航海ノ安寧ヲ增
シ隨ツテ海員ノ幸福換言スレバ生命財產ノ安固ヲ得ル所以ノ途ニ外ナラズシテ
此點ニ關シテハ何人モ異議ヲ挾ムモノナカル可キヲ信ズ然ルニ猶ホ世界海運國
ノ多クハ未ダ此種ノ社會政策的規定ヲ斷行スル能ハザルハ何ゾヤ之蓋シ一ハ財
政上ノ困難ニ基ヅクモノアリト雖モ又一ハカ、ル社會政策的設備ハ以テ海運業

者ノ負擔ヲ過大ニ失セシメ競争力減殺ノ結果一國ノ海運業ヲ衰退セシムルニ至ルナキヤヲ恐ル、ニ因ラズンハアラズ之必ズシモ一理ナキニアラズト雖モ吾人ハ亦楯ニ兩面アルコトヲ忘ル可カラズ即チ斯ノ如キ社會政策的規定ハ海運業者ノ負擔ヲ増スニ相違ナシト雖モ又他方ニ於テハ是等海員ノ保護及ビ保險救濟ノ爲メニ彼等ヲシテ内顧後患ノ憂ヲ脱セシメ勞務ニ専心セシムルニ至ルベケレバナリ、況ンヤ海員ノ勞務ハ他ノ陸上勞働トハ異ナリ獻身的性質ヲ負フル者ナレバ其雇主タル船主ハ管ダニ自己ノ營利ニノミ腐心スルヲ止メ宜シク此勇悍ナル海兒ノ勞ニ酬ユルノ慈量ナカル可カラズ斯クテコソ始メテ健全ナル海運業ノ發達ヲ望ム可キナリ、若シ夫レ一步ヲ進メテ現今世界ノ海運國ガ互ニ相協力一致シテ此人道の施設ヲ一ニスルヲ得ハ各國ハ何レモ同一ノ基礎ノ上ニ起ツ所以ニシテ社會政策的施設ノ爲メニ一國海運業ノ發達ヲ杜絶スルカ如キ憂ナク誠ニ人道上ノ光榮ヲ増ス所以ナリ之或ハ現在ニアツテハ言フベクシテ行フ可カラザルガ如キノ觀アルモ近來英獨佛ノ如キ世界海運國ノ筆頭タル國ガ漸次頑冥ヲ破ツテ此種ノ規定施設ヲ斷行シ英國ノ如キ其本國ニ於ケル港灣ニ出入スル船舶ハ外國船

ト雖モ必ズ英國船同様ノ社會的設備ヲ要ス然ラザレハ其出入ヲ禁ズト揚言スル
ニ至リ其他社會政策的規定ノ一タル船舶積載最大吃水線ニ關スル英獨佛ノ協議
一致ニ傾ケルガ如キニ徵スレバ亦以テ吾人ノ意ヲ強フスルニ足ルモノアリ彼ノ
海法及ビ航海ニ關スル萬國會議ノ如キ夙ニ重要ナル問題ノ研究ヲ遂ゲ既ニ萬國
的協定ヲ經タルモノ少ナシトセズ茲ニ於テ乎吾人ハ近キ將來ニ於テ本論說述セ
ルガ如キ海上社會政策的規定モ亦萬國の議題トシテ協議解決ノ快舉ヲ切望シテ
止マザルモノナリ。(完結)